

〔をもちひらるゝ事のなきは、口をしきことなり。〕
〔享保集成絲綸錄 十五〕寶永七寅年五月

一 覺

一 御成之節雨降つて御供之面々、かさ合羽御免之事

一 雨降候節は、御成先勤番之面々組共に、かさ合羽是又御免之事

一 御道筋勤番同斷之事

右之通雨降候節は難儀可仕と被思召候ニ付、御免被遊候間、向後著用可仕候、已上、

五月

〔享保集成絲綸錄 十六〕寶永七寅年六月

一 召連候供之者共、御城廻笠きせ申間敷旨、最前被仰出之處比日、猥ニ成候様ニ相聞候、彌最前相

觸之通、笠きせ候儀無用に可仕之由、向々江相達候様ニと、大目付中へ加賀守、御目付中へ久世

大和守申渡之、

〔享保集成絲綸錄 十五〕享保三戌年正月

一 御鷹野御成之節は、向後天氣能候とも菅笠為持可申候、雨天又は暑氣ニ付而被免、御免候は、

早速御徒押敷、御小人押に申付、取寄用可申候、尤面々菅笠に印付置、為持可申候旨、可被相觸候、

以上

正月

〔享保集成絲綸錄 十六〕享保十六亥年十一月

別紙之通可被相觸候、大手之方は酒井刑部屋敷角辻番邊、大手腰懸脇迄、櫻田之方は外櫻田御

門、松平長菊屋敷角之辻番迄之間、笠冠り不申候様ニ、番處へも可被申付置候、尤別紙之趣、西丸